

表1 主な任意接種

種 類	接			
	対象者	回 数	間 隔	
おたふくかぜ	1歳以上	1回 ^(注1)		
B型肝炎	(1) HBs抗原陽性の母親から生まれた乳児 ^(注2)	3回	生後0, 1, 6か月	
	(2) ハイリスク者(医療従事者、腎透析を受けている者、海外長期滞在者など)・一般の任意接種者	3回	4週間間隔で2回、更に1回目から20~24週を経過した後に1回	
	(3) 汚染事故時(事故後のB型肝炎発症予防)	3回	事故発生後7日以内その後1か月後及び3~6か月後	
A型肝炎	全年齢 ^(注4)	初回2回 追加1回	2~4週間 初回接種後24週を経過後	
23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン	2歳以上ただし65歳以上の成人中心(定期接種(B類疾病)対象者を除く)	1回		
沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン	○高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者 肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による感染症の予防 ○小児 肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による侵襲性感染症の予防	1回		
黄 熱	9か月齢以上	1回		
狂犬病	全年齢	(国内製)	曝露前3回 曝露後6回	4週間間隔で2回 6~12か月後1回 1回目を0日として以降 3, 7, 14, 30, 90日
		(海外製)	曝露前3回 曝露後4~6回	1回目を0日として 0, 7, 21日又は0, 7, 28日 1回目を0日として 4回接種: 0(接種部位を変えて, 2箇所)に1回ずつ、計2回), 7, 21日 5回接種: 0, 3, 7, 14, 28日 6回接種: 0, 3, 7, 14, 30, 90日
	全年齢		初回免疫2回 追加免疫1回	3~8週間 初回免疫後6か月以上の 間隔(標準として12~18 か月までの間に)
破傷風	全年齢	初回免疫2回 追加免疫1回	3~8週間 初回免疫後6か月以上の 間隔(標準として12~18 か月までの間に)	
髄膜炎菌	2歳以上56歳未満(備考参照)	1回		
百日せき・ジフテリア・破傷風3種混合(DPT)	5歳以上で初回免疫が完了している者	1回又は2回	DPT-IPV 4回目接種後6か月以上 あける	

注1) 日本小児科学会では、2回が推奨されている。

注2) 母親がHBs抗原陽性の場合は、健康保険適用。

注3) 新生児に対する筋注の部位は、大腿前外側(上前腸骨棘と膝蓋骨を結ぶ線の中点付近で、これより内側<脛側>には

注4) 世界保健機関(WHO)ガイドラインでは、1歳以上の小児への接種が推奨されている。

種	備 考	
	接種量	方法
0.5mL	皮下	・副反応は少ないが、接種2~3週間後に一過性の耳下腺腫脹や発熱が見られることもある。また、まれに髄膜炎の報告もある。
各0.25mL	皮下	・(1)では出生直後(生後12時間以内を目安)に抗HBs人免疫グロブリンを通常0.5~1mL筋注 ^(注3) 。
各0.5mL (10歳未満は0.25mL)	皮下又は 筋肉内 (10歳未満 は皮下)	・必要に応じて追加接種を行うことが望ましい。 ・(3)ではHBs抗原陽性の血液汚染事故の場合は抗HBs人免疫グロブリンを併用する。健康保険適用。職業上の場合は労災保険適用。 ・血友病患者にB型肝炎の予防の目的で使用する時は健康保険適用。
各0.5mL	筋肉内 又は皮下	
0.5mL	皮下又は 筋肉内	・接種時期はいつでもよい。 ・2歳以上の脾臓摘出患者は健康保険適用。 ・再接種が禁忌とされていたが、平成21(2009)年10月添付文書が改訂され、再接種が可能となった。
0.5mL	筋肉内	定期接種で実施する場合は、皮下接種で行う。(削除) *小児の場合は、定期接種については皮下接種、肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者に対する接種は、全年齢について筋肉内接種(任意接種)となります。
0.5mL	皮下	・授乳中の婦人には接種しないことが望ましい。やむを得ず接種する場合には授乳を避けさせる。
各1.0mL	皮下	・接種要否は世界保健機構(WHO)の推奨も参考に検討する。 ・咬傷等の曝露を受けた場合には、以前に曝露前免疫を完了した者であっても、必ず曝露後免疫を行う。 *国内製と海外製は、曝露後の接種回数が違うので注意する。
各1.0mL	皮下	
各1.0mL	筋肉内	
各1.0mL	筋肉内	
各0.5mL	皮下又は 筋肉内	
0.5mL	筋肉内	・2歳未満の小児、56歳以上の者への有効性、安全性は確立していない。
0.5mL	皮下	・学童期以降の百日せき予防目的(日本小児科学会推奨)。 ・就学前児の百日せき抗体価が低下しているため、就学前の追加接種を推奨(5歳~7歳半)。 ・2種混合(DT)の代わりに3種混合ワクチンを接種してもよい(11歳-12歳)。

片寄らない)に行う(日本小児科学会誌90:415, 1986)。